

「かながわ地域看護師」 の養成を推進します！

～病院等施設管理者・看護管理者の皆さまへ～



地域全体で看護職の養成に取り組みませんか？

【問合せ】

◆神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会

電話：045-242-7221

メール：toiawase@k-ha.or.jp

◆ホームページでも情報公開中

下記URL（神奈川県病院協会HP）

「実習病院連絡協議会」のタブをクリック！

https://www.k-ha.or.jp/training_hospital/

新たな看護師確保・養成方法を提案します！

実施主体 神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会とは？

- 当協議会は、実習病院の確保・拡大及び実習の効率化を図り看護教育の発展と実習施設の充実を目指すとともに、円滑な運営を寄与することを目的に1992年に設立されました。

以来、協議会の目的を果たすため、実習病院に対する助成の要請に努め、行政や関係団体と協力し、さまざまな活動を行っております。

1999年度からは、実習生の教育に尽力されている実習指導者の皆様の表彰事業を神奈川県と共催で実施しております。

また、看護職養成校や養成施設が加入している神奈川県看護師等養成機関連絡協議会（以降、養成機関）との協同により、看護師の基礎教育に関する情報交換や課題解決に向けた検討を目的として、連絡会議（研修会・講演会）を開催するなどの活動も行っております。

神奈川県に届け出されている実習病院のうち127施設の加入をいただき、加入率は79.1%となっております。



実施の背景

- 間もなく「2025年問題」と言われる少子高齢時代を迎えます。

国は、地域医療構想による病床の機能分化・転換の整備や、医療と介護の連携による地域包括ケアシステムの体制整備を求めています。核となる、看護職員は、人材不足が指摘されています。

厚生労働省の調査では2025年には約200万人の看護師が必要とされているのに対し、2020年で約170万人に留まり、更に神奈川県は、全国と比較しても大きく不足しています。

この需給ギャップをどう埋めていくかが課題となります。

また、医療施設の規模、地域により、財源やマンパワーに差があるため、自院のみで解決することは困難です。

看護師の離職を、一つの病院の問題と捉えず、地域の問題として考え、取り組む必要があります。

そこで、当協議会が中心となり神奈川県や養成機関と協働し、地域医療想や地域包括ケア時代に求められる看護職のキャリア形成を支援する新たな事業を実施していきたいと提案するものです。

また病院から在宅に至る看護提供の場面などにおける総合的力を強化するため、地域でのさまざまな研修会や交流会を実施していきたいと考えています。

地域医療構想・地域包括ケア時代とは？

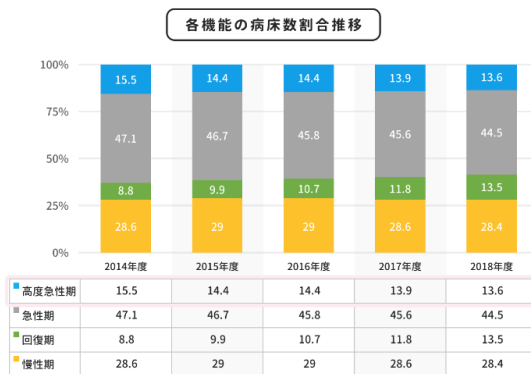
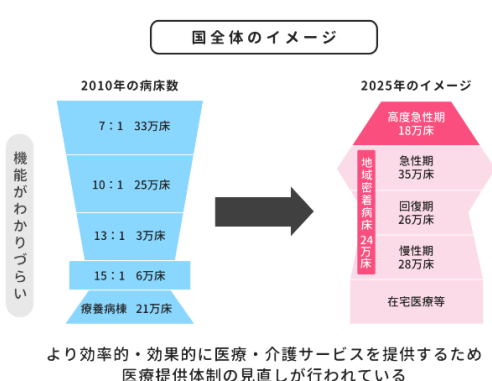
地域医療構想からみる看護師とは？

- 地域医療構想は、2025年を見据え、構想区域における病床の機能を「高度急性期・急性期・回復期・慢性期」の4つに分け、地域の実情に応じた医療の提供体制を実現する取組です。

地域に応じた必要病床数と、具体的な医療ニーズとの整合性を考慮することが求められますが、神奈川県の場合、回復期や慢性期の病床や在宅医療の強化が必要であることは間違いが無いようです。

しかし、過剰とされる高度急性期・急性期病床を回復期に転換させる、慢性期病床を在宅医療へ、など国が示すビジョンで整備を行った場合、多くの急性期病院の看護師は、地域の実情に即した、再配置が求められ、増加する高齢者のニーズに相応しい総合的な技術や知識を求められることとなります。

こうした再整備を診療報酬改定への対応として行うだけでなく、地域の主体的な取組として行うことが事業の主眼です。



平成30年度（2018年度）病床機能報告の 結果について - 厚生労働省

地域包括ケアシステムからみる看護師とは？

- 地域包括ケアシステムとは、退院した患者が住み慣れた地域で、安心した療養生活を継続できるように、医療と介護、双方の多職種が協働して、支える仕組みのことです。

その中心的役割を担うのが看護師です。急性期病院の連携先は、回復期病院や療養型施設、訪問看護ステーションなどが挙げられますが、患者の多くは在宅へと退院していきます。

看護師は、地域における患者情報の共有や、退院後の患者が、どのような生活を迎えるのか、急性期から地域への流れを理解することが求められます。

多職種との協力も必須であり、生活支援の視点も含めたより総合的なスキルが必要となります。

円滑な地域包括ケアシステムの実現には、地域をよく知り、地域の医療・介護資源の課題を理解する総合的な力量を持った看護師の育成とその仕組みづくりを地域全体で行うことが重要となります。

看護職を取り巻く状況を知り、新たな一歩を…

看護職不足の原因とは？

- 中核病院（大病院・大学病院等）では…
新人看護師の離職、中堅看護師の疲弊による離脱
- 中小病院では…新卒の希望人員が確保できない、など
- 介護施設では…人材の高齢化、配置数が少ない、非常勤が多い、など
- 訪問看護では…小規模事業所が多いため個々の負荷が大きい、など
- このほか、夜勤可能な看護師が不足しており、人材派遣会社に頼らざるを得ない状況や、ライフステージの変化による退職などがあります。



これから起こりうる事態とは？

- 医療機関では、看護師不足による労働環境の悪化、医療の質の低下や、病床に余裕があっても、患者を受け入れられないといった事態もあります。
また、中小病院や介護施設が脆弱化すると、大病院からの後方搬送が滞り、在院日数にも影響を及ぼします。

医療機関や介護施設等と連携する訪問看護においても、24時間対応や看取りの体制など、機能強化を望まれています。看護師の9割が女性で、子育てや、介護と切り離せません。看護職の訪問看護に占める人材の割合は、数%とわずかで状況は更に加速する恐れがあります。

こうした医療サービスの縮小や低下が起きれば、患者はよりよい環境を求めて、転居を選択する場合も少なくありません。

実施の目的

ここまで看護職を取り巻く状況を説明してきました。

それぞれの看護職の勤務状況においても、課題はさまざまです。

そのため、目的は2つ挙げました。

- **地域医療構想と地域包括ケア時代に相応しい看護師の確保と養成を地域全体で取り組むこと**
- **看護職の離職、地域からの流出を防ぐこと**



財源やマンパワーといった資源には限りがあり、施設の規模、地域によっても大きな差があります。こうした現状を、個別に解決するのではなく、近隣施設の機能を知り、課題を共有し、連携して、地域医療構想・地域包括ケア時代を担う、看護師の育成を行います。

「かながわ地域看護師」と名付けます！

かながわ地域看護師とは？

地域でジェネラリストとして活躍する看護師です！



例えば・・・

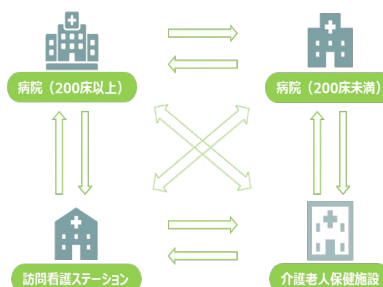
- 地域の人口構造などの特性と、医療・福祉関係の資源や課題を理解している
- 病院や介護老人保健施設等、地域の施設等で様々な健康レベルにある対象を全人的に捉え、生活機能の回復・維持を支援している
- 看護実践能力・調整能力を活かし、自施設以外の多職種とも連携を図っている

かながわ地域看護師を養成するには？

- 交流会を開催・・・地域の医療資源を知るための研修会
(2022年度 各地区で開催予定)
- 異なる施設間で人材交流を実施・・・近隣施設の機能を知り、相互理解を深める

人材交流【循環型】の例

- A病院(中小規模の病院)と B病院(中核(大規模)病院)
- A病院(中小規模の病院)と C病院(大学病院)
- A・B・C 病院 と D施設(介護老人保健施設など)
- A・B・C 病院 と F施設(訪問看護ステーションなど)



- 入職時から「地域看護師」を意識する採用ツールとして活用

人材交流【養成型】の例

- 学生が就職活動を行う際の選択肢として活用するもの。
将来の見通しが難しく、どのような機能の病院(施設)に向いているのかを悩む学生に対し提案する。初年度は入職した病院で基礎研修を行い、2年目以降のタイミングで、近隣病院や在宅分野での研修へと勤務経験を重ね、その後、就職先を選択できる仕組みとする。

人材交流の効果

- **幅広い領域に対応可能な看護師の育成が期待できる。**
入職を希望する学生や、新卒看護師に、こうした取組みを実施している、と紹介し、勤務に不安や迷いが生じた際、可能性を模索する機会を与えられます。他施設で得た知識を活かすとともに、自院を再認識することが出来ます。
- **ライフステージに合わせた勤務が出来る。**
地域の中で、どのような分野でなら働き続けることができるか等を、考える機会となり、キャリア支援や離職防止につながります。

人事交流【循環型】の取組み事例を紹介します

人事交流を行った病院同士の繋がりを紹介します

○B病院（中核病院）の人材をA病院（中小規模の病院）に出向した事例

B病院のYさんは、地域の状況を知るため、連携を図るためA病院へ出向した。他院の実際を見て、入退院調整の大切さを知るとともに、自院の急性期病院としての役割を改めて認識することになった。

さらにその後、A病院で体制に不足の事態が生じた際、B病院に協力依頼が入った。その際、以前出向を経験したYさんが手を挙げ、A病院に向かった。

院内の状況など出向時に勉強していたため、即戦力として勤務することができ、A病院も困難を乗り越えることができた。

日頃の連携や、地道な人材交流の大切さを実感した参考事例です。

取組事例のご紹介



【事例①】 公益財団法人横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院

<顧問 窪倉 孝道 様>

高齢化の進行で、病床の機能分化と連携を進める地域医療構想と患者・利用者を地域で支える地域包括ケアの仕組みづくりが本格化しています。「時々入院、ほぼ在宅」を支えるには、急性期医療分野だけではなく、地域の回復期や慢性期の病棟、訪問看護や介護施設で活躍する「地域看護師」が不可欠です。私たちの育成プログラムが、これからの地域ニーズを担う「地域看護師」を育てるキャリア支援に役立てば幸いです。

<副院長・統括看護部長 奥山 洋子 様>

「地域看護師」は、「循環型」と「養成型」での育成を開始し、「養成型」の当院での受け入れは2022年度が初年度となります。高齢者の生活そのものを支えたいという看護師達が、意欲的にとりこんでいます。地域包括ケア時代を支える看護師のキャリア形成を地域全体で担えれば幸いです。

【事例②】 社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市東部病院

<看護部長 渡邊 輝子 様>

どのような機能の場でも活躍でき、地域に貢献できるジェネラリストナースになってもらうことを期待しています。自分の所属する施設とは違う施設基準（一般病棟、回復期リハビリテーション、地域包括ケア）での看護を経験し、実践の振り返りを通して継続看護の学びを深めることができます。病院同士の看護の連携力を鍛えて、地域における看護サービスの質を向上していきたいと思えます。

<「循環型」出向者の方の感想>

地域での病院同士の連携を知りたいと思い希望しました。汐田総合病院の一般病棟の看護師が積極的に退院支援にかかわっている姿勢をみて、入退院支援の重要性を知りました。また、患者さんの治療が困難かつ緊急性が高い状況の時には、高度急性期病院の済生会横浜市東部病院に転院調整されているのを見て、自分の所属する病院の役割を実感し、視野が広がりました。

「かながわ地域看護師」を育てませんか？

皆様へのメッセージ



伊勢原協同病院
副院長兼看護部長
神保 京美 様

少子高齢化が進み、地域完結型医療にシフトしている環境下において、様々な疾患を持つ患者に対応できるジェネラリストの育成が急務となっています。本事業への参画が、様々な診療科の看護や多様な価値観を学ぶ機会となり、地域で活躍できる人材育成の一助となればと考えています。

三浦市立病院
総病院長
小澤 幸弘 様

地域において、中核病院は医療の最後の砦です。看護師にも病を治すための専門的な能力が求められます。それに対して、地域に密着した中小病院は地域包括ケアシステムの要です。看護師は病を抱え地域に戻り生活する人の最も身近な支援者であり、そこに地域看護師がいることが求められていると考えます。

座間総合病院
副院長・看護部長
竹村 華織 様

地域医療構想がより具体化する中で、地域の看護ニーズが変化しています。急性期看護の実践力に加え、地域との連携を見据えた看護を展開できるジェネラル力を備えた看護師が鍵を握ります。ひとつの病院で看護師を育成することから複数病院で育てるあらたな看護師のキャリア支援の在り方。看護管理者として患者と家族が暮らす地域の安心を守るために、この事業についてぜひ関心をお持ちいただき一緒に取り組みませんか。



横須賀共済病院
副院長兼看護部長
小池 美智子 様

少子高齢化・生産年齢人口減少の中で、ジェネラリストとして、多様な場面で活躍できる看護師が求められています。看護師等養成機関の皆様にご理解いただき、看護学生が「かながわ地域看護師」に関心を持ち、未来に向けた看護を考えられるよう、協働できれば幸いです。

しょうじゅの里小野
医務室 看護師長
小田 明美 様

地域包括ケア時代を迎えた今、自らの願いに添い生き抜く高齢者たちが、住み慣れた街で馴染みの方々に囲まれ暮らすことができる。中核病院や中小病院がその機能・役割を果たすには、介護施設で働く看護師が確かな知識と技術をもって身ひとつで高齢者の暮らしに寄り添い、看護本来のケア力を発揮することが求められます。ベテラン看護師と若手看護師が協働して働きたいと願っています。

**神奈川県看護師等養成機関
連絡協議会**
会長 榊 恵子 様

看護系学校で学ぶ皆様は、地域包括ケアの重要性について、ひしひしと感じておられることでしょうか。今後、病院、地域の連携の中で将来の看護師像を作り上げていく必要があります。その先導を担っていく新人看護師を期待するところです。将来の看護を作るのは皆さん自身です。

地域で開催される交流会に参加しませんか？

★主な特徴★

- 地域医療構想・地域包括ケアシステムの中で活躍できる看護師を養成します！
- 単施設のみではなく、複数施設でキャリアを支援します！
- 継続看護の視点が拡がり、自施設及び地域で更に活躍できる看護師の養成につながります！



実施のスケジュール及び取組（計画）

地域の医療資源を知り、活用するための研修の実施等

養成普及事業実施のためのガイドライン作成

かながわ地域看護師養成事業交流会開催

異なる施設間での人材交流

詳細は、交流会・研修会で説明！
リーフレットに掲載の窓口にお気軽にお問い合わせください。

	2022年7月～9月	10月～12月	2023年1月～3月
神奈川県	○関係団体へ説明・周知及び協力依頼 ○施策への位置づけを検討	○県主催の関係会議等での周知	○県主催の関係会議等での周知
地域看護師養成事業検討会	開催 普及啓発(ガイドライン案)・交流会の検討含むについて	普及啓発(ガイドライン案)・交流会の検討含むについて	普及啓発(ガイドライン案)・交流会の検討含むについて
実習病院連絡協議会 各地域	交流会開催	交流会開催	交流会開催